

5月連休にどこかに滑りに行きたいと思っていたが、間際まで計画が立っていませんでしたので、結局一人で行くことになってしまいました。5月4日の宿泊の確保を何度も試みるが成功しないので、諦めて出発することにしたが、今度は東北高速道が大渋滞でどうしようもない。交通情報を聞きながら家で待機することにした。夜になってやっと渋滞が解消したので、夕食後出発する。深夜の東北道をひたすら走って古川インターで下りた頃には連休2日めの5月4日になっていた。陸右東線に沿って鳴子を抜け、47号線を一人旅、車にも人にも出会わない、信号にも引っかからない。舟形・新庄間の13号線を通り、最上川に沿って47号線を酒田に向かう、やはりほとんど交通量は無いが時間はどんどん経過していく、夜明けは近い。最上川の水面が薄明の中に見え始めるが、鳥海山は遠い。1987年の秋に大平山荘から吹浦コースを御浜神社経由、外輪山文殊岳まで錦繡の紅葉を求めて登ったときも、やはり夜中走り続けて鳥海ブルーラインで夜が明けてしまったことを思い出した。今回の目標である湯ノ台コースへは、鳥海山南面を取り巻くように付けられた奥山林道から派生する大台野林道を辿ると滝の小屋まで自動車道路が付けられているが、今年は748mの標高点付近で雪に覆われ車はここまでである。国民宿舎鳥海荘が標高478mであるから、従来の登山道経由より少しは便利と言える。伏拝岳の稜線が2,130mであるから、標高差1,380mの登行・滑降ということになる。そのうち900mは無立木、露岩なしの純白の大斜面であるから5月の本州では第一級の山スキーコースと言える。この雄大な山スキーを結局夜行日帰りで楽しんだことになるが、自分ながら呆れたものだ。駐車した車の中でしばらく休憩する、本当は少し眠りたいのだが、長時間運転で調子が狂っているのか、うまく寝つくことが出来ないで目を閉じている。快晴の朝日に顔を照らされ明るすぎるので、ともかく起きることにする。他のパーティがどんどん出発するのを眺めながら朝食を取り、身支度を整え一番遅く出発する。林道に沿ってスキーを引いて進む。上部の無立木の大斜面が見えるようになったところからシールに切り替え、樹林をつきり道路をショート・カットして登る。滝の小屋とほぼ同レベルに近づき、道路が谷を迂回するころには純白の大斜面が目前に広がっており、どこでも直登できる。伏拝岳は随分高い、先行パーティが点々と小さく見える。目の前の斜面をひたすら登り続けるだけだ。八丁坂を登りきると、河原宿と呼ばれる平坦地で、文殊岳、伏拝岳、行者岳にいたる鳥海山外輪山が一望できる素晴らしいところだ。キャンプ・サイトに最適地で、ここから何本ものコースが選べるから、定着で楽しみたいものだ。1ピッチ位で到達できそうに思える程近くみえていた稜線に向かって出発するが、本当は高度差で600mもあり結局1時間半近くかかってへとへとになってやっと尾根に到着する。途中斜度が増したところでシール登行からつぼ足に切り替えて登るはめになったのも時間がかった原因と思われるが、南斜面で日射により雪質が腐ってきて滑落の可能性が考えられたし、シールの効きが今一つ頼りなかったからやむを得ないことであろう。外輪山の尾根の向こうには、今まで見えなかった鳥海山の最高点新山が間近に見える。頂上から千蛇ヶ谷に向かって2、3本のシュプールが鮮やかに残っている。最上川が蛇行しながら酒田の町を通り抜けたところで日本海に注いでいるところもよく見えている。さらに南方には月山が真っ白に輝いている。スキーヤで混雑しているとローカル放送が言っていたが、人影が点々と見える気がするくらい空気が澄んでいて遠望がよく効く。これから滑降しようとする湯ノ台



湯の台から鳥海山南面の遠望

コースは、回りを見回したところ数人で大斜面を占領するのだから月山の混雑を思うと天国か極楽かと思える。それでも先にシュブールをと思い、昼食もそこそこにスタートする。全山無人の大ゲレンデどこでも滑降コースをとれるが、雪質の良さそうなところを選んで大きな弧、小さな弧と連続回転で滑降する。どんどん高度が下がるが非常に壮快な滑降である。これぞ山スキーの醍醐味である。河原宿まで一気に下り休憩とする。大斜面に刻んだシュブールが真昼の太陽に輝いている。それに快晴の青空、すべてをフィルムに記録したいとおもうが、余りに巨大すぎて、このスケールと感動はファインダには収まりそうもない。ドリップでいれた暖かいコーヒーを飲みながら雄大な光景を満喫する。河原宿から下は、八丁坂から滝の小屋経由の夏道と今回の登行路とした自動車道との間に、草津川、荒木川とその間の尾根が一本あるので、沢の源頭部を左へ迂回するようにコースをとると、道路に着く。ところどころ雪が消えて舗装が露出しているので、道路をつききるように疎林の中をひたすら滑降する。だんだん樹林が濃くなるとともに雪の消えているところが現れてくる、そこには巨大と呼ぶに値するような落のとうの群落がたくさん見られる。小休止を兼ねて少し採集することにしたところ短時間にポリ袋一杯も採れたので、お土産とした（てんぶらにしたら美味しかった）。林を抜け、最後は道路を滑って朝の出発地点に汗だくでたどり着く。道端の流れでスキーや靴の汚れを洗ってから、温泉目指して移動する。鳥海山は孤立峰で回りになだらかな裾野を巡らし、それぞれの方向に登山口を開いているのでそれぞれに国民宿舎が設けられている。下山直後に汗を流し爽やかな気分をあじあうには誠に好都合である。湯の台口には鳥海山荘(0234・64・2426)、西面の吹浦口には大平山荘(0234・23・4941)、東面の猿倉口には鳥海荘(0184・58・2065)と、春スキーのベースに最適である。連休の中日で宿を探すのが見つけないので、諦めて帰ることにする。夜行日帰りの鳥海山スキーとなった。

コースタイム

大台野林道(748h)8:00 - 河原宿(1500h)10:00/10:20 - 伏拝岳(2130h)11:50/13:00 - 河原宿13:10/13:30 - 大台野林道14:30